

群馬県利根郡昭和村

「赤城原 開拓記念碑」

群馬県北部の利根郡昭和村は農業が盛んで、レタスやハクサイ、ホウレンソウなど高原野菜の産地。その中心地が赤城高原開拓地だ。

赤城山の北麓の同開拓地は、旧陸軍の演習地だった。標高400～800mの高冷地帯。飲料水を得ることすら困難な未墾地だった。開拓者は主に手作業で開墾した。晩霜害や集中豪雨などの自然災害が多かった。また、火山灰土壌で軽石が多く、干ばつ害を受けやすかった。厳しい自然条件下で、作物は思うように育たなかった。

入植当初は雑穀類の生産だったが、ようやく畑地かんがい施設が完成し、1965（昭和40）年代、野菜専業に転換。生産量が年ごとに増加し、高原野菜の供給基地となった。

赤城原地区に赤城開拓農協、追分地区に赤城高原開拓農協があった。関越自動車道の昭和インターを降りて、5分位の所に開拓記念碑がある。赤城開拓農協が84（昭和59）年に建立したもので、碑銘は「赤城原 開拓記念碑」。隣に碑銘板があり、開拓期のあらましが記されている。

46（昭和21）年4月から52年4月までに89戸が入植。碑文には「この荒野に樹木を伐採してカヤ葺の掘立小屋を造り

大きな木の切り株やカヤ株等の抜根に悪戦苦闘し 現在の機械化と違って一畝一畝の開墾は実に血と汗の結晶であった」と、困難に立ち向かった状況が刻まれている。

赤城原開拓記念碑

①位置 群馬県昭和村

②設置者 入植者

③設置日 昭和59年6月

④碑文表 赤城原

開拓記念碑

群馬県議会議長 元県開拓連会長 高島照治 謹書

副 碑 開拓碑建立の由来

昭和二十年八月 吾が日本は大東亜戦争に敗れ 都市の大半は焦土と化し 農村は極度に疲弊し 猶且戦災者復員軍人或は海外引揚者等で この狭き国土は有史以来未曾有の大混乱に落ち入った

この時国策による緊急開拓事業が施行され ここ赤城山西北麓の旧陸軍演習場であった原野の一角に 昭和二十一年四月第一次入植者として帰農した者六十四名 引き続き第二第三次入植者は昭和二十七年四月迄に二十五名になった

入植後久呂保就農組合 利根開拓連合協同組合久呂保支部と変遷があったが 昭和二十五年五月政令により赤城開拓農業協同組合が誕生して開拓組織の団結と地域農業の振興が打ち出された

この荒野に樹木を伐採してカヤ葺の掘立小屋を造り大きな木の

切り株やカヤ株等の抜根に悪戦苦闘し 現在の機械化と違って
一鍬一鍬の開墾は実に血と汗の結晶であった

時には冷害或は旱魃又は台風害等幾多の試練と苦難を乗り越え
乗り越えて従来の雑穀農業より畜産経営へ或は酪農蔬菜経営と
大きく移行し 現在では既存農家に優るとも劣らぬ程の立派な
経営と成果を挙げる迄に至ったのである

又水一滴さえ無きこの里へ竹樋から水道を 農地には吾が国初
の畑灌漑を 薄暗きランプ生活から煌々たる電灯を 掘立小屋
から近代的住宅に ガタガタ農道は舗装されて 漸く一般社会
の生活に伍する程になった

この間開拓の志し空しく離農した者十余名又不幸にして病魔
に倒れた物故者二十一名を数える風雪の三十八年を迎え 開拓行政の終焉と共に一般行政へ移行し 名誉ある開拓農協の発展的解散を行うに当り 茲に記念碑を建立し この地永遠の平和と繁栄心より祈念するものである





開拓碑建立の由来

昭和二年八月 吾が日本は大東亞戦争に敗れ 都市の大半は無土と化し 農村は極度に疲弊し 猶且戦災者復員軍人或は海外引揚者等て この狭き国土は有史以来未曾有の大混亂に落ち入つた

この時国策による緊急開拓事業が施行され 赤城山西北麓の旧陸軍演習場であつた原野の一角に 昭和二十一年四月才一次入植者として帰農した者六十四名 引き続き才二才三次入植者は昭和二十七年四月迄に二十五名になつた

入植者久呂保就農組合 利根開拓連合協同組合久呂保支部と変遷があつたが 昭和二十五年五月政令により赤城開拓農業協同組合が誕生して開拓組織の団結と地域農業の振興が打ち出された

この荒野に樹木を伐採してカヤ葺の堀立小屋を造り大きな木の切り株やカヤ葺の根に悪戦苦闘し 現在の機械化と違つて一鍬一鍬の開墾は実に血と汗の結晶であつた

時には冷害或は早魃又は台風害等幾多の試練と苦難を乗り越え 或は酪農蔬菜全営と大きく移行し 畜産全営へ或は酪農蔬菜全営と大きく移行し 現在では既存農家に優るとも劣らぬ程の立派な全営と成果を挙げる迄に至つたのである

又水一滴さえ無きこの里へ竹樋から水道を農地には吾が最初の畑灌漑を 薄暗きランプ生活から煌々たる電灯を 堀立小屋から近代

的住宅に ガタガタ農道は舗装されて 新しく一般社会の生活に伍する程になつた

この間開拓の志し空しく離農した者十余名又不幸にして病魔に倒れた物故者二十一名と数える風雪の三十八年を迎え 開拓行政の終焉と共に一般行政へ移行し 名譽ある開拓農協の発展的解散を行うに当り 茲に記念碑を建立し この紀永遠の平和と繁栄を心より祈念するものである

昭和五十九年六月吉日 小原秀育 文撰